

## [005]附属図書館研究開発室の概要 : 2000～2001(第5年次)

<https://doi.org/10.15017/16787>

---

出版情報 : 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2000-2001, pp. 1-24, 2001-04-01. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :

# 附属図書館研究開発室の概要

---

2000～2001

(第5年次)

九州大学附属図書館

## はじめに

附属図書館では、近年の教育研究活動の高度化、多様化、学際化、国際化等の進展に対応した高度な学術情報の提供サービスを実現するため、平成8年4月に評議会決定により5年間の期限付きで研究開発室を設置し、以来5年間に亘って研究開発活動を展開してきました。本年度は、研究開発室員を7人に増員し、当館が抱えている様々な課題に組織的に取り組み、ここに報告しますように、それぞれの課題について着実に研究成果を上げることができました。

研究成果は、年度ごとに『附属図書館研究開発室の概要』としてまとめ、刊行・公開してきましたが、本年度は、発足以来5年目という節目に当たり、今後の研究開発室の継続を検討してもらうために、この5年間に展開してきた研究開発室の活動と得られた成果、今後の大学図書館における重要な研究開発課題等についての報告を評議員を対象にして実施しました。その結果、多くの評議員から積極的な高い評価を頂き、3月開催の評議会において、さらに5年間の延長を決定して頂きました。

研究開発室の活動に対してこれまでに頂きました総長・評議員はじめ関係者の皆様のご理解とご支援に対しまして、また、研究開発室室員及び附属図書館の関係者のご努力に対しまして深く感謝いたします。

平成13年度は、研究開発室にとりまして第2期の5カ年のスタートの年になります。平成11年度から学内的に措置されています研究開発室専任の助教授のポストについても、さらに3年間の運用を認めて頂いています。引き続き、研究開発室の事業に対して、ご理解・ご支援くださいますようお願い申し上げます。

平成13年3月

九州大学附属図書館長

有 川 節 夫

## 目 次

### はじめに

|      |   |    |
|------|---|----|
| I    | 設置の目的   | 1  |
| II   | 組 織   | 1  |
| III  | 平成12年度における研究開発  |    |
|      | 1. 電子図書館システムの研究開発   | 2  |
|      | 2. 貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発<br>古活字本「枕草子」画像データベースの作成と公開について | 4  |
|      | 3. 内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する調査研究                                | 7  |
|      | 4. 韓国との間における図書館間交流の推進に関する調査研究                                 | 9  |
|      | 5. 古書・文書データベース構築に関する調査研究                                      | 10 |
|      | 6. 貴重古医書のデータベース化及び医史的、書誌学的な調査研究                               | 11 |
| IV   | 研究開発室懇談会  | 13 |
| V    | 研究開発室会議   | 15 |
| VI   | 平成13年度における研究開発事項  | 16 |
| VII  | 関連規則等   | 18 |
| VIII | 沿革・日誌1996～2001  | 20 |

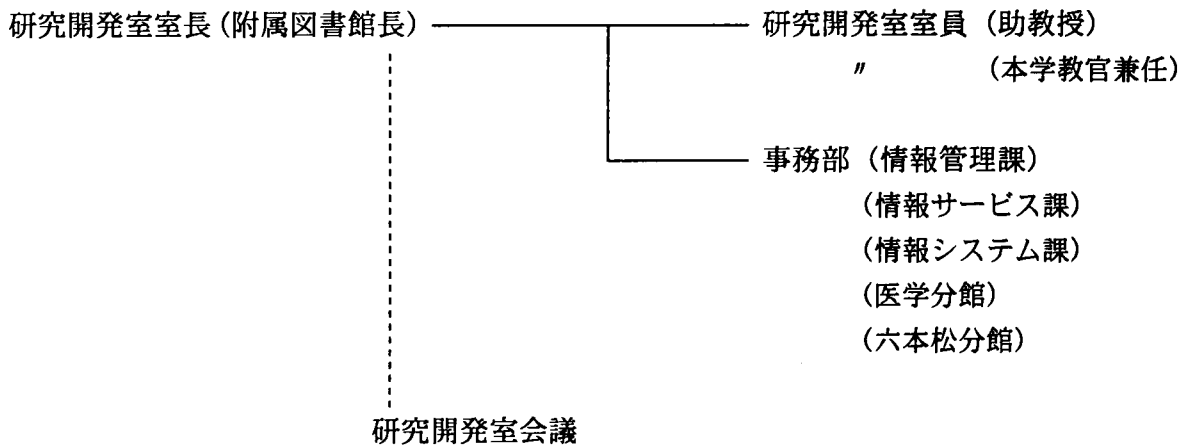
# I

## 設置の目的

九州大学附属図書館研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が指定する事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービス実現に寄与することを目的とする。

# II

## 組織



### 名簿(平成12年度)

|    |                 |                        |
|----|-----------------|------------------------|
| 室長 | 有川 節夫           | (附属図書館長、システム情報科学研究院教授) |
| 室員 | 南 俊朗            | (附属図書館研究開発室助教授)        |
|    | 今西 裕一郎          | (人文科学研究院教授)            |
|    | 吉田 昌彦           | (比較社会文化研究院教授)          |
|    | 柳原 正治           | (法学研究院教授)              |
|    | Wolfgang Michel | (言語文化研究院教授)            |
|    | 松原 孝俊           | (言語文化研究院教授)            |
|    | 竹田 正幸           | (システム情報科学研究院助教授)       |

# Ⅲ

## 平成12年度における研究開発

### 1 電子図書館システムの研究開発

室 員 南 俊朗（研究開発室 助教授）

室 員 竹田 正幸（システム情報科学研究院 助教授）

担当部署 附属図書館情報システム課電子情報掛

#### 〈研究開発概要〉

今年度は、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P&P）より、電子図書館のための検索サービス技術に関する研究・開発への研究費の助成を受けることができ、図書目録イメージ検索システムを中心に、IC タグの利用や参考調査事例検索システムの研究など、図書館の電子化・自動化に関する研究を大きく進展させることができた。

#### 〈研究開発の内容〉

##### 【図書目録イメージ検索システム】

昨年度の研究・開発の成果を受け、今年度も、「図書目録イメージ検索システム」の改善や新規機能に関する研究・開発を行った。本手法を適用することにより、従来の遡及入力による方法よりも、短期間、かつ少ない費用で、電子的蔵書検索を実現することができる。また、本手法は、図書目録のみならず、多くの既存資料に対して、電子化及びネットワーク経由のサービス化を実現するのに有効であり、新たな分野への適用を含め研究を行った。その他、デジタル図書館に関する国際会議やワークショップ等を通じて、本システム研究の成果を発表した。来年度は、本研究を更に発展させ、当初計画の締め括りとして、実証システムを完成させる。

#### 1. 図書目録検索システムの改善

今年度も、昨年度同様、システム仕様の再検討及び再構築を進めた。また、利用者からの要求受付処理用とデータ管理用の機械を分離可能とするなど、多様な状況で本システムを稼働させることができるよう、改善を行った。

#### 2. 管理者支援機能の研究

目録カードのイメージデータの一部には、ノイズを含むものがあり、また、手入力されたラベル情報にも様々なエラーが含まれる。今年度は、ノイズの検出や除去などイメージデータ自体のエラーだけではなく、ラベル情報等、データ全体の構成に関わる種々のエラーを検出する機能を研究し、今年度新たに加わった文学部データ約38万件のエラー検出に適用した。

#### 3. イメージデータの整備

今年度は、新たに入力された文学部データを整備し、これまでサービスを行ってきた、教育学部、理学系の図書に加えてサービスを開始した。また、医学部の目録カード約10万件の入力を行った。

### 【ICタグを利用した図書館の自動化に関する調査・研究】

今後、図書館業務の電子化、自動化を進めていく上で、蔵書管理方法の電子化は大きな役割を果たすものと考えられる。非接触型のICタグは、その推進のためのキーとなる技術の1つである。ICタグを蔵書に貼付することにより、蔵書の外部から、そのID情報を読み取ったり、それに関連した情報を書きこんだりすることが可能となる。この性質を利用することにより、現在、タトルテープを用いて実現されている盗難防止機能とバーコードを用いた図書貸出・返却等の機能の双方をICタグ1つの貼付により代替することができるようになる。今年度は、このような潜在的な重要性を持つ、ICタグに関し、基礎的調査や評価キットを用いた実験を通じて、その実現可能性の検討を開始した。その結果は、全国図書館の自動化に関する検討に反映される。

来年度は、今年度の調査・研究を更に発展させ、図書館業務に取り込んでいくための問題点の整理、及びその解決法の研究に取り組む計画である。

### 【参考調査事例検索システムに関する研究】

レファレンスカウンタを通じての参考調査業務は、利用者にとっては図書館の顔としての業務である。今後、電子図書館サービスの重要性が高まるにつれ、利用者サービスの窓口としてだけでなく、図書館の独自性を発揮する場としても、参考調査業務の強化が必要となる。このような観点から、参考調査の事例を蓄積し、それを容易に検索できる環境を整備することにより、業務の効率化を図り、また、サービスの質の向上を実現する手段として、参考調査事例検索システムの研究を開始した。その一環として、これまで蓄積された、参考調査事例カードのイメージ化を行い、目録カード検索システムの手法を応用した事例検索システムの研究・開発を開始した。

来年度は、従来より九州地区の図書館が協力して進めている事例データベース検索システムとのシームレスな統合化を意識した事例検索システムの研究を開始する。

### 【研究成果発表】

- [1] Oda, M. and Minami, T.: From Information Search towards Knowledge and Skill Acquisition with SASS, Proc. 2000 Pacific Rim Knowledge Acquisition Workshop (PKAW2000), Dec. 2000.
- [2] Minami, T., Kurita, H. and Arikawa, S.: Putting Old Data into New System: Web-based Catalog Card Image Searching, Proc. 2000 Kyoto International Conference on Digital Libraries (ICDL 2000), pp. 296-303, Nov. 2000.
- [3] 山之上卓, 南俊朗, Ian Ruxton: 文書作成支援のための WWW コンコーダンサー, 第7回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ (FOSE2000), Nov. 2000.
- [4] 松川伸一, 南俊朗: 図書目録カードイメージ入力のボトルネック—大量データの正当性を検証する—, デジタル図書館, ISSN1340-7287, No. 19, Nov. 2000.
- [5] 南俊朗, 栗田英和, 有川節夫: イメージによる図書目録カード検索システム—遡及入力問題の一解決法—, デジタル図書館, ISSN1340-7287, No. 18, Sep. 2000.
- [6] Yamanoue, T., Minami, T. and Ruxton, I.: Using the WebLEAP (Web Language Evaluation Assistant Program) to Write English Compositions, FLEAT IV (The Fourth Conference on Foreign Language Education and Technology), July 28 - August 1, 2000.

## 2 貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発

【古活字版『枕草子』（十三行本）画像データベース（付・慶安2年刊整版本）の  
作成と公開について】

室 員 今西 裕一郎（人文科学研究院 教授）

担当部署 附属図書館情報システム課図書館専門員

### 〈研究開発概要〉

平成8年度以来、本学が所蔵する貴重図書中の15点について画像データベースを作成し、ホームページ上に公開してきた。この間、画像データベース作成の手法や検索の方法などに関して独自の工夫を積み重ねてきた。

昨年度の高活字版『源氏物語』のデータベース化の経験を基に、今年度は附属図書館所蔵の高活字版『枕草子』と慶安2年版のその画像データベース化を試み、「九州大学所蔵枕草子データベース」として平成13年3月末にWeb上に公開した。

### 〈研究開発の内容〉

附属図書館の支子文庫には、『枕草子』高活字版としては三番目に出版された、江戸初期刊の十三行高活字版が蔵されているので、データベース作成にはそれを用いた。ただ残念なことは、支子文庫本は全五冊のうち第五冊目を欠いており、その欠損を補い、かつ高活字版以降の『枕草子』流布本の実体をも窺うべく、慶安2年版の整版本（全七冊）『枕草子』を併せて、画像データベース化した。検索は田中重太郎編著『校本枕冊子』に施された章段番号によるものとし、数丁以上にわたる長い章段には同じく『校本枕冊子』本文の各章段の行数を五行ごとに表示して検索の便を計った。

一口に『枕草子』といっても、現存伝本は4系統に分類され、互いに大きく異なった本文を持つ。そのうち今日、古典文学全集などで一般に読まれているのは、三巻本と呼ばれる系統の本文である。しかしこの三巻本が評価されるようになったのは近代、それも戦後になってからのことであり、江戸時代に広く読まれていたのは、写本としてしか伝わらなかった三巻本ではなく、江戸初期から版本として流布した能因本とよばれる系統の本文であった。能因本に基づく江戸時代の注釈書『枕草子傍注』や『枕草子春曙抄』は、すでに冊子体の影印本として刊行されているが、江戸初期に出版された『枕草子』本文、すなわち高活字版や慶安版本は、今日殆ど顧みられることはない。

しかし、江戸時代に芭蕉や西鶴や近松が読んでいたのは、この能因本系の本文であった。そのような『枕草子』の伝流、享受を考察するにあたって、江戸初期刊の二種の刊本を比較対照できる本データベースは有益な足がかりとなるであろう。

# 九州大学所蔵枕草子データベース

解説

[図書館ホームページ](#)

## 目次

### 十三行古活字版枕双子

江戸初期刊。能因本系統の枕草子。

### 慶安二年版清少納言枕草子

近世枕草子流布本の原点。

### 対照検索版

十三行古活字版と慶安二年刊整版本を同一画面で検索。

九州大学所蔵  
枕草子データベース

解説

慶安二年版清少納言枕草子

十三行古活字版枕双紙

『校本枕冊子』対応段検索

凡例  検索 消去 [トップページへ](#)



ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ジャンプ(G) Communicator(C) ヘルプ(H)

戻る 再読み込み ホーム 検索 ガイド 印刷 セキュリティ Shop 停止

場所: file:///DELL3/共有/makura/taisho/frame/11.htm

Instant Message 新着 お勧め ムバース

康安二年版  
(第一冊一丁表)  
進む 戻る



古活字版  
(第一冊一丁表)  
進む 戻る



『校本枕冊子』対応段検索

凡例  検索 消去 トップページへ

源 >> 源枕草子 - 郵便受け - taisho 源枕草子 - N 一太郎 - L 14C

### 3 内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する調査研究

室 員 柳原 正治（法学研究院教授）  
担当部署 附属図書館情報管理課課長補佐

#### 〈研究開発概要〉

九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画策定並びに図書館サービスの高度化及び図書館業務改善に向けた内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する情報収集と調査研究を進めている。

今年度も例年通り職員の研修出張の機会等を捉え、国内の大学図書館を視察し調査と情報を収集することと、外国の大学図書館を視察し調査と情報を収集することを基に調査研究を行った。

#### 〈研究開発の内容〉

##### 1 海外大学図書館等の視察

海外大学視察として、今年度は、今西研究開発室員（人文科学研究院教授）、中野三敏本学名誉教授及び図書館職員1名が、アメリカ合衆国カリフォルニア州立大学バークレー校、スタンフォード大学を訪問し、和漢書書誌調査、図書館運営の実態等を調査した。次に今西研究開発室員及び図書館職員4名が韓国高麗大学、梨花女子大学等を訪問し、韓国における大学図書館の電子図書館化状況、利用サービスの現況等を調査した。また、九州大学創立八十周年記念事業により、図書館職員1名がオーストラリアにおける大学図書館のコンソーシアムの実態等について調査するため、オーストラリア国立大学、モナッシュ大学を訪問した。次いで、韓国の大学図書館における電子図書館化、データベース化の現状、利用サービスの実態等を調査するため、松原研究開発室員及び図書館職員3名が釜山大学、慶山大学、韓国中央図書館等を訪問している。さらに、九州大学の韓国研究プロジェクトの機会を捉え、図書館職員2名が延西大学及び西江大学等を訪問し、研究調査を行っている。

これらの調査結果については「海外大学図書館等視察報告－第7集－」として報告する。

##### 2 国内大学図書館等の視察

職員の研修出張を利用して、それぞれテーマを持って視察している。今年度の訪問機関及び調査事項は次のとおりである。また、各大学図書館等についての資料等も収集している。

○鳥取大学・鳥取県立図書館・島根大学 栗山情報管理課補佐 穴見参考調査掛長

・韓国語資料の利用提供

○京都大学 早田会計掛長 瓜生雑誌情報掛長

・情報発信調査

・電子ジャーナルの導入

○東京外国語大学・早稲田大学・国際基督教大学  
安永情報サービス第一掛長、山崎相互利用掛長

・ICタグによる図書館運用、自動書庫

- 岡山大学・奈良先端科学技術大学院大学 田村情報サービス第二掛長、益森電子情報掛長
  - ・電子図書館、メタ情報データベース
- 大阪大学 大村図書情報第一掛員
  - ・学内デリバリー、移転状況
- 名古屋大学 山本会計掛員、大平雑誌情報掛員
  - ・電子図書館、電子ジャーナル
- 東京工業大学 大山庶務掛長、秋月情報サービス第一掛員
  - ・図書館管理、利用者サービス
- 鹿児島大学 吉松相互利用掛員
  - ・相互利用運用
- 静岡大学・山梨大学 保田図書情報第二掛長
  - ・図書館資料の受入管理
- 鹿児島大学 田中情報サービス課長、安永情報サービス第一掛長
  - ・図書館サービス、利用運用
- 新潟大学 佐田事務部長、高塩情報管理課長
  - ・図書館管理運営、電子図書館活動

#### 4 韓国との間における図書館間交流の推進に関する調査研究

室 員 松原 孝俊（言語文化研究院 教授）

担当部署 附属図書館情報管理課課長補佐

情報サービス課図書館専門員

##### 〈研究開発概要〉

1999年3月、九州大学附属図書館は韓国ソウル大学校中央図書館との間に図書館交流協定を締結し、具体的な交流活動の時期に入っている。

松原室員は、平成12年度の前半、文部省在外研究員としてアメリカ合衆国に滞在し、カリフォルニア大学 Berkeley 校所蔵韓国関係資料の調査に従事しながら、10ヶ月間にわたってアメリカの大学図書館の実情を視察した。帰国後には、ソウル大学との学術交流を進展させるために、三度の訪韓を行い、双方の意見交換に努めた。

その他、昨年度実施した日韓交流をテーマとした展覧事業に続き、今年度は、本学中央図書館、文学部をはじめ学内に所蔵している朝鮮本の調査を行った。その結果、約160種、1,500冊の刊本や写本類の所蔵が確認され、これらの資料の編纂作業を終え「朝鮮本目録」として今年度に刊行予定である。並行して、本資料の電子化作業（画像データ及び目録データ）を進めており、データベースとして形成する予定である。

また、ソウル大学校中央図書館との図書館間交流事業の一環としてソウル大学校出版会の出版物と九州大学出版会の出版物を寄贈交換し、今後とも相互に継続していくことが了承されている。

さらに、韓国の大学図書館を訪問したり、韓国からの大学図書館関係者が来館したりと、交流の実を上げている。

## 5 九州大学附属図書館所蔵の古書・文書データベース構築に関する調査研究

室 員 吉田 昌彦（比較社会文化研究院 教授）  
担当部署 附属図書館六本松分館受入掛長

### 〈研究開発概要〉

本研究は、九州大学附属図書館及び各部局に分散所蔵されている古文書類の一元化された目録データベースの作成、電子化の方策などを具体化するための調査研究を行うことを課題としているが、今年度は次の3点を行った。

### 〈研究開発の内容〉

まず、九州大学附属図書館及び各部局に分散所蔵されている古文書類の所蔵状況の概要調査を行うとともに本学における古文書の保存管理形態についての一定の検討を行った。この検討結果については平成14年度春、古書・文書整理検討委員会に対して報告を行う予定である。

第2には古文書類の一元化された目録データベースの作成、電子化の方策などの準備として下記の通りの作業を行った。

- ① 六本松地区分館所蔵檜垣文庫史料の原所在地不明分の再検討。
- ② 六本松地区分館所蔵旧玉泉館史料関係目録の再検討とデータベース化。

まず、①の檜垣文庫史料の原所在地不明分の再検討に関してであるが、檜垣文庫古文書の目録データベースの電子化は、昨年度、原所在地判明分については終了している。本年度の作業はその残余分を対象としているものである。来年度をもって再検討作業を終了し再検討結果の入力作業に入ることを予定している。

②は、旧玉泉館史料の内、筑前国怡土郡の大庄屋文書でその数3000点余りの文書群である三苦家史料を主として取り扱った。同史料については、すでに目録が刊行されているが、目録の誤りをチェックしつつ入力作業を行い、目録データベースの電子化を行った。同文書は、大庄屋文書として村方の動向がわかるほか、自分や家族を質に入れる質奉公人関係の証書類が含まれており、当時の人身売買の実態や社会的背景を知る上で貴重であると考えられ、その一部を画像化する準備を進めている。

また、福岡県八女郡上広川町役場史料の目録データベースの作成に着手した。同史料は、明治0年代から大正年間までの史料で、その内容も財政、庶務、統計、学校、土地、議会など広汎に亘っている。本史料は、案件ごとの書類を複数綴じ込んでつくられた書冊や帳簿が大部分であるため、綴り込められている案件ごとに検索できるようなデータベースを作成することを目指している。

## 6 医学分館所蔵貴重古医書のデータベース化及び医史学的、書誌学的な調査研究

室 員 Wolfgang Michel (言語文化研究院 教授)  
担当部署 附属図書館医学分館図書館専門員

### 〈研究開発概要〉

1999年に附属図書館医学分館の保存図書館で古書が発見され、総長裁量経費により2000年春には体系的な再調査が行われた。その際に和洋書、医学・博物学関係の書物、事典など1870年代までの書籍約2000冊の存在が明らかになった。この中にはヨーロッパでも貴重書となっているものも少なくない上、手稿や写本も数編含まれている。これらの古書の選及目録を作成し、データベース化による公開を進め、併せてコレクションとしての医史学的及び書誌学的な資料価値等についても調査研究を行った。

### 〈研究開発の内容〉

古医書の整理・分類にあたり、新たに書棚を購入して医学分館の貴重図書室及び展示室へ移した。1800年代後半以降の約500冊の資料はパルプ使用により酸性紙劣化が激しいので、日本フアイリング社が開発した、資料を痛めない新たな脱酸処理 (DAE 法) を施した。

古書の選及目録作成は現在も続けられており、平成12年度末までには約700冊が大学の OPAC と NACSIS の WEBCAT に登録された。漢籍や基礎医学古遺書集成などと合わせ、国内でも屈指のコレクションとなることと思われる。

現在、これらを九州大学附属図書館医学分館の古医書コレクションとして公開するウェブサイト (<http://herakles.lib.kyushu-u.ac.jp/igaku/index.html>) を作成しており、ここにコレクションの総索引も掲載する。また、個々の書物には解説を加え、これも随時増やしていく。

特に貴重な資料については、標題紙、目次、扉絵、図版等を画像データ化し、公開する。12年度末までには約300ページ分をデータ化し、とりあえず CD-ROM に保存した。

その画像は今後、解説文とともに、上記のウェブサイトで公開し、必要に応じてほとんどの図版が300dpi でダウンロードできるようにする。

また、医学分館の貴重図書室の和書に関しては現存の仮目録を入力し、上記のウェブサイトで開催した。その中の数冊にはは解説文や画像資料も付け加えた。

九州大学医学部百周年に向けて、医学分館の古医書コレクションの知名度を徐々に上げていくために、『日本医史学雑誌』(2001年第47巻第1号) に上記の活動に関する案内を掲載した。

### 〈研究開発の今後の展望〉

まず重要なことは洋書目録作成の完了である。それから古いドイツ語、英語、フランス語と現代語とでは綴字法が相違するなどの問題点があるので、統一して効率的な検索ができるようなシステムの開発を、研究開発室の竹田助教授の協力を得て検討する予定である。

また、和書の仮目録に含まれているのは、当貴重図書室に保管されている書籍の約3分の2に過ぎないので、未登録の和書の目録作成や仮目録の点検・充実は今後の課題だといえる。無論、和書の図版、解説文なども上記のウェブサイトにおいて洋書と同様な規模で公開する必要がある。

図1 画像データの例 (ヴァレンティニ「薬物の博物館 (1704年)」より)



図2 古医書コレクションのウェブページ (目録)

## Kyushu University Library (Medical Faculty)

### Collection of Valuable Books

[Japanese](#) || [English](#)



- [Welcome Message](#)
- [Outline of Collections](#)
- [Download Service \(Procedures and Conditions of Usage\)](#)
- [Catalogues](#)
  - [Japanese & Chinese books](#) (by title)
  - [Japanese & Chinese books](#) (by date of print)
  - [Japanese & Chinese books](#) (prelimin. catalogue; pdf)
  - [Western Books](#) (by authors)
  - [Western Books](#) (chronological order)
  - [Western Books](#) (prelimin. catalogue; pdf)
- [Exhibitions](#)
- [Search Page \(search by authors, titles, keywords\)](#)
- [Conditions of Visiting the Collections](#)

## IV

## 研究開発室懇談会

## 平成8年度第1回

- 日時 平成9年1月9日(木) 11:00~13:00 館長室  
出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)  
議事 1 予算について  
2 研究開発状況について  
3 平成9年度の研究開発事項について  
4 その他

## 平成9年度第1回

- 日時 平成9年9月4日(月) 10:30~12:00 館長室  
出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)  
議事 1 予算について  
2 海外大学図書館の視察計画について  
3 研究開発状況について  
4 その他

## 平成9年度第2回

- 日時 平成9年12月22日(月) 11:00~13:00 館長室  
出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)  
議事 1 国文学関係資料画像データベースの公開について  
「大和物語」、「伊勢物語」、「建礼門院右京大夫集」  
2 海外大学図書館の視察について(報告)  
3 その他

## 平成9年度第3回

- 日時 平成10年3月24日(火) 11:00~13:00 館長室  
出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原(室員)  
議事 1 17~18世紀国際法・国制史コレクションデータベースの公開について  
2 国文学関係「扶桑名勝図」の画像データベースの公開について  
3 平成10年度研究開発事項について  
4 その他



#### 平成10年度第1回

日時 平成10年7月6日(月) 13:30~15:30 館長室  
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野、今西、柳原(室員)  
議事 1 平成10年度研究開発計画について  
2 奨学寄付金の受入について  
3 その他

#### 平成10年度第2回

日時 平成10年10月28日(水) 10:00~11:30 館長室  
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野(室員)  
議事 1 予算について  
2 研究開発及び調査研究の動向について  
3 研究開発室研究会の開催について  
4 その他

#### 平成10年度第3回

日時 平成11年2月22日(月) 15:30~17:00 会議室(新館4階)  
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野、今西、柳原(室員)  
議事 1 ソウル大学校中央図書館との交流協定について  
2 平成10年度研究開発の進捗状況について  
3 その他

※平成11年度より「研究開発室懇談会」を「研究開発室会議」と名称変更

#### 平成11年度第1回

- 日時 平成11年4月12日（月） 13:30～ 館長室  
出席者 有川（研究開発室長）、竹田、今西、柳原、松原、吉田（室員）  
議事 1 会議名称の変更について  
2 平成11年度研究開発事項について  
3 選考委員会について  
4 その他

#### 平成11年度第2回

- 日時 平成11年5月17日（月） 10:00～ 館長室  
出席者 有川（研究開発室長）、竹田、今西、柳原、松原（室員）  
議事 1 附属図書館研究開発室助教授候補者の選考について  
2 その他

#### 平成11年度第3回

- 日時 平成12年3月22日（水） 15:00～ 館長室  
出席者 有川（研究開発室長）、南、竹田、今西、吉田（室員）  
議事 1 平成11年度研究開発の進捗状況について  
2 平成12年度研究開発事項（案）について  
3 その他

#### 平成12年度第1回

- 日時 平成12年4月22日（水） 15:00～ 館長室  
出席者 有川（研究開発室長）、南、竹田、今西、吉田（室員）  
議事 1 平成11年度研究開発の進捗状況について  
2 平成12年度研究開発事項（案）について  
3 その他

# VI 平成13年度における研究開発事項

1/2

|   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | 事 項  | 九州大学附属図書館研究開発室に係る研究開発の総括   |
|   | 概 要  | 大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う学習・教育・研究支援活動の改善に関する事項のうち、九州大学附属図書館研究開発室において行う課題を指定し総括する。  |
|   | 室 員  | 有川節夫（附属図書館長、システム情報科学研究院教授）   |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日   |
|   | 担当窓口 | 山田律子（情報システム課図書館専門員）  |
| 2 | 事 項  | 九州大学附属図書館における電子図書館システムの研究開発  |
|   | 概 要  | 電子図書館化推進のための基礎及び実用化に関する研究を行う。特に、図書目録カードのイメージデータによる書誌情報検索支援システムの総合的支援システムの実用化に重点をおいた研究開発を進める。<br>その他、参考調査業務支援システム等の電子的情報収集・検索システム、ICタグを利用した図書館機能の電子化・自動化、図書館サービスのパーソナル化、書誌情報の遡及入力支援システムなどに関して、要素技術からその適用システムに至る研究を推進する。 |
|   | 室 員  | 松尾文碩（情報基盤センター長）<br>南 俊朗（研究開発室助教授）  |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日   |
|   | 担当窓口 | 益森治巳（情報システム課電子情報掛長）  |
| 3 | 事 項  | 九州大学附属図書館所蔵の貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発  |
|   | 概 要  | 九州大学附属図書館で所蔵する貴重資料の画像及び書誌データベース作成に当たっての対象資料の選定、入力方式、表示方式、検索法等に関する研究開発を行う。  |
|   | 室 員  | 今西裕一郎（人文科学研究院教授）   |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日   |
|   | 担当窓口 | 園田國昭（情報サービス課図書館専門員）  |
| 4 | 事 項  | 九州大学附属図書館所蔵の古書・文書データベース構築に関する調査研究  |
|   | 概 要  | 古書・文書整理検討委員会から出された報告書（平成9年2月）に盛り込まれた検討の後を受け、九州大学附属図書館及び各部局毎に分散所蔵している古文書類の一元化された目録データベースを作成、電子化するための方策等について具体化するための調査研究を行う。   |
|   | 室 員  | 吉田昌彦（比較社会文化研究院教授）  |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日   |
|   | 担当窓口 | 堀之口廣教（六本松分館受入掛長）   |

|   |      |   |
|---|------|---|
| 5 | 事 項  | 統合移転後の新図書館建設に関する調査研究  |
|   | 概 要  | 九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画に向けて、新図書館の設計等、理想的な大学図書館を建設するための調査研究を行う。   |
|   | 室 員  | 山野善郎（人間環境学研究院助教授）   |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日  |
|   | 担当窓口 | 昌子喜信（情報サービス課情報サービス第二掛長）   |
| 6 | 事 項  | 内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する調査研究   |
|   | 概 要  | 九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画策定並びに図書館サービスの高度化及び図書館業務改善に向け内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する情報収集と調査研究を行う。  |
|   | 室 員  | 柳原正治（法学研究院教授）   |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日  |
|   | 担当窓口 | 栗山 平（情報管理課課長補佐）   |
| 7 | 事 項  | 医学分館所蔵貴重古医書のデータベース化及び医史的、書誌学的な調査研究  |
|   | 概 要  | 工学部旧保存書庫収蔵の医学部蔵書中には、先達の収集になる多数の16-19世紀の貴重書が含まれている。平成11年度は総長裁量経費により再調査、整理作業を行った。これの遡及目録、データベース化による公開を促進し、併せてコレクションとしての医史的及び書誌学的な資料価値等に関する調査研究を行う。          |
|   | 室 員  | Wolfgang Michel（言語文化研究院教授）  |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日  |
|   | 担当窓口 | 井上久宏（医学分館図書館専門員）  |
| 8 | 事 項  | ICタグによる図書館運用に関する調査研究  |
|   | 概 要  | 九州大学附属図書館における図書貸出／返却窓口の作業の効率化、図書検索時間の短縮、無人ゲートによる入出者管理など、図書館サービスの拡大を目指したIT化推進のために、ICタグを用いた図書館運用に関して調査研究を行う。  |
|   | 室 員  | 藤崎清孝（システム情報科学研究院助教授）  |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日  |
|   | 担当窓口 | 安永振一郎（情報サービス課情報サービス第一掛長）  |
| 9 | 事 項  | レファレンス事例検索システムに関する調査研究  |
|   | 概 要  | 九州大学附属図書館におけるレファレンス業務支援のために、過去の事例を蓄積し、今後のサービス提供に役だてるためのレファレンス事例検索システムの構築に関する情報収集と調査研究を行う。とくに、九州地区大学図書館協議会の各図書館との連携も考慮し、今後の図書館の電子化に対応できるシステムの実現法について調査したい。 |
|   | 室 員  | 有村博紀（システム情報科学研究院助教授）  |
|   | 期 間  | 平成13年4月1日～平成14年3月31日  |
|   | 担当窓口 | 原田紀子（情報サービス課参考調査掛長）   |

## VII

# 関連規則等

### 九州大学附属図書館研究開発室の設置について

(平成 8年2月20日評議会決定)

(平成11年5月21日評議会改正)

(平成12年3月23日評議会改正)

#### 一 設 置

九州大学附属図書館に研究開発室を置く。

#### 二 目 的

研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が指定する課題について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

#### 三 室 長

- 1 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。
- 2 室長は、研究開発室の業務を総括する。

#### 四 室 員

- 1 研究開発室に室員を置く。
- 2 室員は、指定された課題について研究開発を行う。
- 3 室員は、本学の教官のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。
- 4 室員の任期は一年とし、再任を妨げない。

#### 五 事 務

研究開発室の事務は、附属図書館情報管理課において処理する。

#### 六 その他

この決定に定めるもののほか、研究開発室の運営に関し必要な事項は、室長が定める。

#### 附 記

- 1 この決定は、平成13年4月1日から実施する。
- 2 研究開発室は、平成13年4月1日から平成18年3月31日までの間存続するものとする。ただし、同室の業務の成果の評価を踏まえて見直しの上、平成18年4月1日以降も存続する必要があるときは、適切な時限を設けて、評議会の了承を得るものとする。

## 九州大学附属図書館研究開発室要項

(平成8年3月19日附属図書館商議委員会承認)

### (趣 旨)

- 1 この要項は、「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」(平成8年2月20日評議会決定)に定めるもののほか、九州大学附属図書館研究開発室(以下「研究開発室」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

### (研究開発)

- 2 附属図書館長は、研究開発事項及び期間を定め、研究開発事項に適した者を室員として選抜するものとする。

### (総長への室員の推薦)

- 3 附属図書館長は、総長に室員を推薦するにあたり、室員が所属する部局等の長の承諾を得るものとする。

### (研究開発成果等の報告)

- 4 研究開発室長は、研究開発の成果及び進捗状況を適宜商議委員会等に報告するものとする。

### (運営経費)

- 5 研究開発室の運営に関する経費は、附属図書館の予算上可能な範囲で支弁するものとする。

### (その他)

- 6 この要項に定めるもののほか、研究開発室の運営については、研究開発室長の定めるところによる。

### (実 施)

- 7 この要項は、平成8年4月1日から実施する。

- 平成8年2月20日 評議会において「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」決定
- 3月19日 附属図書館商議委員会において「九州大学附属図書館研究開発室要項」承認
- 4月1日 研究開発室設置
- 6月1日 研究開発室員総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 法学部教授、中野三敏 文学部教授）
- 11月19日 九州大学の新図書館情報システムの披露式展及びデモンストレーションを開催（研究開発の成果を披露、OPAC 横断検索システム、CD-ROM サーバシステム、画像検索システム、全文検索システムなど）  
於：九州大学中央図書館視聴覚ホール
- 11月29日 竹田正幸室員による講演『電子図書館を超えて』（平成8年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区第2回研究会）  
於：九州大学中央図書館会議室
- 平成9年1月9日 研究開発室懇談会（第1回）開催 於：館長室
- 3月18日 研究開発室員を講師として図書館職員研修会を開催  
竹田正幸室員『情報検索と図書館』  
柳原正治室員『欧米及び日本の「外交史料館」について』  
中野三敏室員『坂本書誌学の諸問題』
- 4月1日 平成9年度研究開発事項として前年度研究開発事項及び研究室員を継続  
ESAKIA 全文データベースを WWW サーバーにより公開
- 5月1日 附属図書館研究開発室の概要 1996-97発行
- 9月4日 研究開発室懇談会（平成9年度第1回）於：館長室
- 11月15日 米国大学図書館視察（柳原研究開発室員、末次情報管理課課長補佐。シカゴ大学図書館、アメリカ図書館協会本部など視察。大規模大学図書館の組織・運営・サービス、電子図書館化、研究開発機能等の実態調査のため。11月22日まで）
- 12月1日 国文学関係貴重資料「大和物語」「伊勢物語」「建礼門院右京大夫集」画像データベースを WWW サーバーにより公開
- 12月22日 研究開発室懇談会（平成9年度第2回）於：館長室
- 平成10年2月1日 「17～18世紀国際法史・国制史コレクション」データベースを WWW サ

ーバーにより公開

- 3月24日 研究開発室懇談会（平成9年度第3回）於：館長室
- 4月1日 研究開発室総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 法学部教授、中野三敏 文学部教授、今西裕一郎 文学部教授）
- 4月1日 附属図書館研究開発室の概要 1997-98発行
- 4月1日 国文学関係貴重資料「扶桑名勝図」画像データベースを WWW サーバーにより公開
- 7月6日 研究開発室懇談会（平成10年度第1回）於：館長室
- 10月28日 研究開発室懇談会（平成10年度第2回）於：館長室
- 11月9日 秦ソウル大学校中央図書館長による講演『情報化時代における韓日文化交流と大学図書館の役割』於：視聴覚ホール
- 11月9日 研究開発室研究会 於：中央図書館会議室  
ソウル大学校中央図書館と九州大学附属図書館における電子化の状況についての報告と意見交換
- 平成11年 2月22日 研究開発室懇談会（平成10年度第3回）於：館長室
- 3月26日 ソウル大学校図書館との図書館間交流協定締結 於：ソウル大学校
- 4月1日 研究開発室総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 大学院法学研究科教授、今西裕一郎 文学部教授、松原孝俊 言語文化学部教授、吉田昌彦 大学院比較社会文化研究科教授、）
- 4月1日 附属図書館研究開発室の概要 1998-99発行
- 4月12日 研究開発室会議（平成11年度第1回）於：館長室
- 5月10日 松原孝俊室員による開学記念貴重文物展観「韓国を知る、日本を知る」－江戸時代から21世紀の国際交流を考える－ 5月16日まで  
有川室長講演（日本医学図書館協会シンポジウムパネル討論「情報の検索から知識の発見へ」於：アクロス福岡）
- 5月11日 松原孝俊室員による公開講演会「命を五年縮候」－雨森芳洲と日韓文化交流－
- 5月17日 研究開発室会議（平成11年度第2回）於：館長室
- 5月27日 有川室長講演（国立大学図書館協議会「図書目録カードのイメージ化とその検索」於：東京大学附属図書館）
- 7月1日 研究開発室南俊朗助教授発令（教官定員運用による、大型計算機センター）
- 7月21日 有川室長講演（名古屋大学図書系職員研修会「情報学研究と大学図書館」於：名古屋大学附属図書館）
- 10月31日 東南アジア大学視察（柳原研究開発室室員、栗山情報管理課課長補佐、益



森電子情報掛長。国立シンガポール大学、チュラロンコン大学及びタマサート大学図書館など視察。東南アジアにおける電子図書館化の現状、英語以外言語使用国における電子図書館化及び組織・運営・サービス・予算等の実態調査のため。11月5日まで)

- 平成12年 1月26日 有川室長講演（熊本大学学術講演会「九州大学における情報基盤センターへの期待」於：熊本大学附属図書館）
- 3月1日 有川室長講演（九州大学附属図書館講演会「九州大学附属図書館の中・長期目標について」於：九州大学附属図書館）
- 3月22日 研究開発室会議（平成11年度第3回）於：館長室
- 3月24日 有川室長、今西室員、佐田事務部長ソウル大学校中央図書館訪問
- 3月31日 国文学関係貴重資料「源氏物語」画像データベースを WWW サーバーにより公開
- 4月1日 研究開発室総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 大学院法学研究科教授、今西裕一郎 文学部教授、松原孝俊 言語文化学部教授、吉田昌彦 大学院比較社会文化研究科教授、Wolfgang Michel 言語文化研究院教授）
- 4月1日 附属図書館研究開発室の概要 1999-2000発行
- 5月8日 今西室員による開学記念貴重文物展観「平安朝文学入門」－竹取・伊勢・源氏の世界－ 5月14日まで
- 5月11日 今西室員による公開講演会「平安朝文学の楽しみ方」
- 5月29日 研究開発室会議（平成12年度第1回）於：館長室
- 6月16日 ソウル大学校中央図書館を訪問（今西室員、田中情報サービス課長、山田情報システム課図書館専門員）
- 6月27日 アメリカ合衆国カリフォルニア州立大学バークレー校、スタンフォード大学を訪問（今西室員、中野三敏九大名誉教授、古賀情報サービス課図書館専門員が、和漢書書誌調査、図書館運営の実態等を調査。7月2日まで）
- 7月6日 文学部及び九州文化史研究所の図書目録カード約50万枚を新たに入力し、イメージデータによる図書目録検索システムをさらに充実させ公開
- 8月1日 Yamanoue, T., Minami, T. and Ruxton, I.: Using the WebLEAP (Web Language Evaluation Assistant Program) to Write English Compositions, FLEAT IV (The Fourth Conference on Foreign Language Education and Technology), July 28 - August 1, 2000.
- 8月23日 有川室長講演（東北大学附属図書館講演会「九州大学における電子図書館機能の拡充」於：東北大学附属図書館）

- 9月27日 南俊朗, 栗田英和, 有川節夫: イメージによる図書目録カード検索システム—邇及入力問題の一解決法—, デジタル図書館, ISSN1340-7287, No. 18, Sep. 2000.
- 11月8日 有川室長講演 (国立情報学研究所公開講演会特別講演「情報学研究所への期待」於: 京都国際会議場)
- 11月10日 台湾大学呉明德図書館長が来館し、「図書館の電子化と電子図書館に関する合同セミナー」を開催 (有川室長のオープニングに続き、呉館長「Development of Digital Libraries in Taiwan」、南室員「Putting Old Data into New System: Web-based Catalog Card Image Searching」、竹田室員「Air and SIGMA: Two Efficient Information Retrieval Systems at Kyushu University」、篠原歩システム情報科学研究所助教授「Efficient String Pattern Matching and Text Compression: The Dawn of a New Era」、有村博紀システム情報科学研究所助教授「Discovery of Important Keywords in the Cyberspace」松原室員により締めくくり。)
- 11月13日 2000年京都電子図書館国際会議におけるチュートリアル他 (有川室長「大学図書館と電子図書館の未来」、Toshiro Minami, Hidekazu Kurita, Setsuo Arikawa 「Putting Old Data into New System: Web-based Catalog Card Image Searching」、Hiroki Arimura, Jun-ichiro Abe, Hiroshi Sakamoto, Setsuo Arikawa, Ryoichi Fujino (ENICOM), Shinichi Shimozone (Kyusyu Institute of Technology) 「Text Data Mining: Discovery of Important Keywords in the Cyberspace」11月16日まで)
- 11月14日 Minami, T., Kurita, H. and Arikawa, S.: Putting Old Data into New System: Web-based Catalog Card Image Searching, Proc. 2000 Kyoto International Conference on Digital Libraries (ICDL2000), pp. 296-303, Nov. 2000.
- 11月17日 韓国高麗大学、梨花女子大学等を訪問 (今西室員、山口情報サービス課掛員、木村医学分館相互利用掛長、松田六本松分館閲覧掛長、阿部経済学部図書掛長が視察し、韓国における大学図書館の電子図書館状況、利用サービスの現況等を調査する。)
- 11月18日 オーストラリア国立大学、モナッシュ大学を訪問 (江藤雑誌情報掛員が九州大学創立八十周年記念事業により、オーストラリアにおける大学図書館のコンソーシアムの実態等について調査。11月25日まで)
- 11月29日 松川伸一, 南俊朗: 図書目録カードイメージ入力のボトルネック—大量データの正当性を検証する—, デジタル図書館, ISSN1340-7287, No. 19, Nov. 2000.

- 山之上卓, 南俊朗, Ian Ruxton : 文書作成支援のための WWW コンコーダ  
ンサー, 第7回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ (FOSE2000), Nov.  
2000.
- 12月7日 有川室長講演 (国立大学図書館協議会シンポジウム基調講演「オンライン  
ジャーナルの導入と外国雑誌の収集体制の在り方」於：名古屋大学附属図  
書館)
- 12月12日 Oda, M. and Minami, T.: From Information Search towards Knowledge and  
Skill Acquisition with SASS, Proc. 2000 Pacific Rim Knowledge Acquisition  
Workshop (PKAW2000), Dec. 2000.
- 平成13年1月10日 勉誠出版より「古活字版 源氏物語」全巻画像データベース—九州大学附  
属図書館所蔵本—九州大学附属図書館研究開発室編 監修・解説 今西裕  
一郎 (人文科学研究院教授) CD-ROM 発行
- 2月16日 韓国釜山大学、慶山大学、韓国中央図書館等を訪問 (松原室員、園田医学  
分館図書館専門員、田村情報サービス第二掛長、林田データベース掛長が  
電子図書館化、データベース化の現状、利用サービスの実態等を調査)
- 3月7日 有川室長講演 (東京大学附属図書館講演会「学習・教育・研究の基盤とし  
ての大学図書館をめざして」於：東京大学附属図書館)
- 3月20日 韓国ソウル大学校を訪問 (有川室長、今西室員、南室員、高塩情報管理課  
長がソウル大学校中央図書館との交流協定事業のひとつである、刊行物の  
交換の一環として、ソウル大学校出版会と九州大学出版会の刊行物を相互  
に寄贈交換することについての協議を行い、合意に達した。)
- 3月20日 有川室長講演 (ソウル大学校中央図書館「Discovery of Important Keywords  
in the Cyberspace」  
今西室員講演 (ソウル大学校中央図書館「古活字版源氏物語画像データベ  
ース」)  
南室員講演 (ソウル大学校中央図書館「Putting Old Data into New System」)

---

附属図書館研究開発室の概要 2000-2001 (第5年次)

2001年4月1日発行

九州大学附属図書館

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092(642)2324